



2013年9月11日発行

日本生殖医学会は将来の体外受精に備え、卵子を凍結保存する生殖医療技術を健康な独身女性にも認めるという指針案を発表しました。独身の女性でがんの治療など卵子に障害が起きる可能性のある場合、又はいわゆる「卵子の老化」の心配から「若いうちに卵子を保存しておきたい」と希望する場合に対するサービスです。夫婦間の不妊治療では体外受精で余った受精卵を凍結保存する手法は一般的ですが、未受精卵では技術的に難しいのが実情です。健康な独身女性の卵子凍結を推奨しているわけではないですし、採卵時卵巣が腫れるなどのリスクや、妊娠成功率の低いこと等は依然として問題であり、解決されていませんが進む晩婚化対策の1つの選択肢ではあります。卵子を凍結しておけばいつでも安心というわけではないこと、保存が長期間に及ぶことも考えられるので医療機関との綿密な話し合い、同意が必要でしょう。キャリア優先で管理職めざして働く独身女性の皆さん！貴女だったら卵子保存に投資しますか？

## ■ 卵子凍結保存の指針案骨子

- ・ 加齢などによる機能低下を懸念する場合、未受精卵などを凍結保存することができる。
- ・ 対象者は成人女性とし、採取時に40歳以上は推奨できない
- ・ 凍結保存した卵子の使用は45歳以上は推奨できない
- ・ 凍結卵子は本人が死亡した場合、直ちに破棄する。生殖可能年齢を過ぎた場合は通知して破棄する
- ・ 口頭と文書で十分に説明し、同意を得る

